

町に寄付を いただきました

白鷹きらやか会様（鈴木重治会長）より、町に3万6千円を寄付いただきました。60周年を迎えた町のために使ってほしいと寄付をいただいたものです。

町のさらなる発展のために有効に使わせていただきました。ありがとうございます。



広報直通便

先日、山形新聞で、山林の境界に関する記事を見ました。白鷹町は県内においても山林の境界がはつきりしない箇所が多く、山林の地籍調査（のような作業）も予定しているというような内容でした。町としてなんらかの予定があると思えばおしえていただきたいと思えます。

（60代男性）

A お答えします

今年度、国の助成事業を活用し、滝野地区と十王地区の約50ヘクタールほどの山林をモデル地域として山林の境界明確化事業を実施しています。この事業は、役場にある台帳や字切図等で山林の所有者を調査し、所有者立ち会いのもとで境界に杭を打ち簡易な測量を実施するものです。地籍調査とは違い、筆ごとの境界を出すのではなく、所有者界を出すまでの簡易なもので、登記も行われません。

本町の山林については、筆数が細かく、多数の所有者が入り組んでいる箇所が多いことなどから、境界が不明確な山林が多く、地籍調査も行われていません。さらには、近年の木材価値の低迷などにより山の管理をする人は少なくなり、また、境界がわかる方も高齢化により山に入れなくなってきました。

現在、十王地区と滝野地区の山林で境界の杭打ち作業を行っています。長らく放置された山林は藪になっていて箇所が多く、詳しい方の案内や昔につけたと思われる境界の印がなければ山林の境界を出すことは非常に困難な作業になっていきます。

今回のモデル事業を契機に、少しでも森林の荒廃を食い止める、林業の推進を図るため、山林の境界明確化を進める方法を模索したいと考えています。事業地域以外の山林所有者の皆さんにもご自分の所有地を予め把握いただき、今後の事業展開につなげていただけるようお願いいたします。

■問い合わせ 産業振興課 農
村整備係 ☎86-10212

近年、山形県でもドクターヘリが配備されています。白鷹町においては、最上川をはさんで東側と西側に1カ所ずつドクターヘリ用のヘリポートが整備されれば、緊急時にはたいへん心強いのではないかと思います。

（60代男性）

A お答えします

ドクターヘリとは、医療機器や医薬品を搭載した小型ヘリコプターに、救急医療の専門医と看護師が搭乗し、一刻も早く患者に救命治療を行う医療専用のヘリコプターです。また、機体も小型であるため、救急現場近くの学校のグラウンドや駐車場などを臨時の離着陸場（ランデブーポイント）として、直ちに救命医療を行います。

救急医療の専門医が速やかに救急現場で救命治療を開始できることや、高度な救命医療機関等への搬送時間が短縮されることで、救命率の向上、後遺症の軽減につながります。ドクターヘリのランデブーポイントについては、町が候補地を選考、県と運航業者が着陸地帯の現地確認を行い選

定しています。白鷹町は中学校のグラウンド等の18カ所を登録していますが、グラウンドは砂塵が舞い上がるため散水が必要であり、駐車場を常時使用可能な状態にしておくことは困難です。一刻を争う救急運航においては、砂塵防止のための散水自動車等の障害の除去に要する時間を考慮した場合、救急現場に近いランデブーポイントよりも、距離は遠くともより条件の整ったランデブーポイントの方が着陸に要する時間が短くなり、救急患者への医師による治療を早く開始することができそうです。

十分な広さがあり、散水の必要がなく、車両があっても移動が容易で常時使用できる場所として、夏期間は健康福祉センター前健康運動広場と白鷹スキーセンター前を、冬期間はスポーツ公園駐車場と白鷹スキーセンター前を主に使用しています。

■問い合わせ 総務課防災管
財係 ☎85-6122